牛久:学校周辺に見る自然

第40号 ひたち野うしく小

2020年8月3日発行

く 生きもの発見! ~休み時間に>

こんにちは。ひたち野うしく小2年生との「生きもの発見」、今回はおまけに、次のクラスが始まる前に、私が校舎のまわりで見つけた生きものたちを紹介します。







ホウセンカのみつを吸う、ヒメハラナガツチバチのめす。

3年生のホウセンカでは、**ヒメハラナガツチバチ**のめすがみつを吸っていました。土の中にいるコガネムシ類の幼虫にたまごを産むので、このなかまを「ツチバチ科」とよんでいます。おすは 触 角が長く、区別できます。ハチはみつを出すところがわかっているようで、まっすぐその場所へ向かいます。













ツルレイシ(上左)と、そのみつを吸うキンケハラナガツチバチのおす(上中・上右)、 ヒメハラナガツチバチのめす(下左・下中)、トラマルハナバチ(下右)。

ツルレイシにも、いろいろなハチが来ていました。 触角の長いのは、**キンケハラナガツチバチ**のおす。よく似たヒメハラナガツチバチは、羽のはじが黒いので区別できます。ずんぐりしたのは、トラマルハナバチ。 体が丸くて、花のみつを吸うので「丸花蜂(まるはなばち)」です。



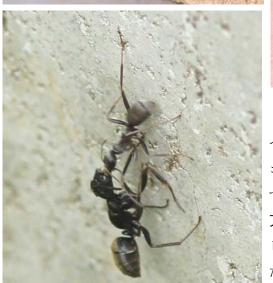


ブタナの花粉やみつをなめる、ツマグロキンバエ。

ビオトープの手前にさいていたブタナには、おもしろい首をしたハエがいましたよ。キンバエの親せきで羽のはじが黒いので、**ツマグロキンバエ**といいます。キンバエは動物のフンや死体にきますが、このツマグロキンバエは、花にきて、長い口先をのばして花粉やみつをなめます。









かべにぶらさがるみのむし(左上: ニトベミノガ) と、ナガコガネグモのおすとめす(右上: 左の小さいのがおす)、かみつきあうクロヤマアリとクロオオアリ(左下: 下の大きいのがクロオオアリ)、ハエをつかまえたチャイロムシヒキ(右下)。